

第三者評価結果シート（児童養護施設）

種別	児童養護施設
----	--------

①第三者評価機関名

特定非営利活動法人エール・フォーユー

②評価調査者研修修了番号

19-13
S15007
S16005

③施設名等

名称：	米沢市立興望館
施設長氏名：	森下 誠
定員：	30名
所在地(都道府県)：	山形県
所在地(市町村以下)：	米沢市太田町四丁目1番153号
T E L：	0238-38-6109
U R L：	http://narusimaen.org/
【施設の概要】	
開設年月日	1949/6/20
経営法人・設置主体(法人名等)：	社会福祉法人緑成会 米沢市
職員数 常勤職員：	23名
職員数 非常勤職員：	7名
専門職員の名称(ア)	家庭支援専門相談員・被虐待児個別対応職員
上記専門職員の人数：	2名
専門職員の名称(イ)	特別指導員・里親支援専門相談員
上記専門職員の人数：	2名
専門職員の名称(ウ)	基幹的職員
上記専門職員の人数：	1名
専門職員の名称(エ)	保育士
上記専門職員の人数：	5名
専門職員の名称(オ)	心理療法担当職員
上記専門職員の人数：	3名
専門職員の名称(カ)	医師(嘱託)
上記専門職員の人数：	1名
施設設備の概要(ア)居室数：	2人部屋5室 3人部屋3室 4人部屋1室 和室8畳1室 11畳1室
施設設備の概要(イ)設備等：	
施設設備の概要(ウ)：	
施設設備の概要(エ)：	

④理念・基本方針

【理念】	「人が人として尊厳をもって 地域や家庭の中で 自立した生活が送れるよう支援いたします」
【基本方針】	<p>法人理念に基づき、次の基本方針により事業を遂行する</p> <p>1. サービスの基本方針 地域の要保護者が、住み慣れた地域で、健全で安全・安心な生活が送れるよう、地域福祉の拠点としての機能を果たし、質の高い多様な福祉・介護サービスの提供を目指す。</p> <p>2. 人材の基本方針 法人の職員は、福祉・介護サービスの基本的理念の下、社会福祉法・介護保険法・老人福祉法・児童福祉法等、関係法令に基づき、自らの仕事に誇りと自信を持ち、常に想像力・応用力に富んだ福祉・介護理論を实践展開できる資質の高い職員を目指す。</p> <p>3. 経営の基本方針 法人理念を基調（思想・行動の根底となるもの）として、常に収支バランスを見据え、時間、エネルギー、人材などの物理量と合わせたコスト意識及び経費削減の意識を一人ひとりが認識するとともにこれを実践し、事業の継続と安定・成長を目指す。</p>

⑤施設の特徴的な取組

1. 社会情勢の変化に伴い、社会的養護が必要な子どもも多様・複雑になっている。当施設においては、30名定員の大舎制で、ハード面での整備は進められてはいないが、法人の基本理念及び児童福祉法、児童憲章の精神を遵守し、子どもの健やかな成長と権利を保障し、安心・安全な環境の中で、愛情を持って適切な支援を行っている。
2. 職員は豊かな心と柔軟な思考・意欲を培うため、自主研修と法人内外の研修をとおり、研鑽を高めている。各職種間連携、チームワークを重視した支援を心掛けている。SV（スーパーバイザー）配置も6年目になり、事例検討、専門性の向上のための講義等アドバイスを受け、支援に活かしている。興望館ではSST（ソーシャルスキルトレーニング）に力を入れており、各年齢構成に応じたセカンドステップ、サードステップを施設全体で行っている。
3. 子ども一人ひとりの発達、生活能力、成育歴を把握し、自立支援計画、月ごとの目標立案、評価により一貫性のある計画的な援助に努めている。
4. 個々の関わりを重視し、日々の生活の中での支援をとおり、子ども達の人間力を育てている。思春期や反抗期、自分を見失いがちなところを寄り添い、子ども一人ひとりの自己実現に向け、その自立を支援している。
5. 第三者機関による評価を受け、支援のあり方を外部の目からも精査する。

⑥第三者評価の受審状況

評価実施期間（ア）契約日（開始日）	2017/5/8
評価実施期間（イ）評価結果確定日	2017/11/21
受審回数	1回
前回の受審時期	平成26年度

⑦総評

◇特に評価の高い点

1、児童自治会について

児童自治会は小学校4年生からの子ども全員が参加して毎月開催され、会長・司会・書記の役割があり高校生がリーダーとなって運営しています。活発な意見交換があり話し合われた内容を「意見要望書」にまとめて提出し、職員全員が迅速に周知できるよう徹底しています。できることはすぐ取り入れ、内容によっては関連した各部署会議で検討して翌月の自治会で回答することもあり、できないことは丁寧な説明を行い子ども達の意見を施設全体で誠実に受け止めています。Wi-fi回線（無線LAN）設置・高校生のスマートフォン利用などは時代のニーズに合わせながら、利用については何回も話し合いルールを決めて今年度から取り入れています。自分達できまりや目標、行事の役割分担を決めて活動することを職員は見守り、子ども達の自主性を尊重しています。

2、子どもの担当職員2名体制について

子どもの担当職員は指導員（対外部）と保育士（対内部）の2名体制をとっています。一方が注意したときもう片方がフォローするなど役割分担し、子どもの逃げ場をつくり常に連携しながら連続性のある支援に取り組んでいます。担当職員と子どもが自立支援室で一緒に調理して楽しみながら食す「部屋会」を開催し、買い物・外出など個別のニーズにも柔軟に対応して信頼関係に繋げています。施設からの「表彰状」は担当職員が子ども達が日頃努力していることを認めて年2回贈り、子どもの励みになり長所を伸ばす取組をしています。毎月の支援会議では担当職員が作成した資料をもとに子ども全員について検証・見直しを行い、愛情を持って成長を見守っています。

3、人事考課制度について

職員は年1回、「研修評価」と「個別能力向上計画書」（自己目標）を提出して本人・直属の上司・法人の3段階の評価と査定を受け、全員に対して館長・法人施設長の面談が行われています。努力し成果を上げた職員が適正な評価と処遇を受けられ、職員一人ひとりを大切にす人事考課制度を今年度から取り入れています。有効活用することで職員の士気を高め、子どもへの安定した支援に繋がっています。

◇改善が求められる点

1、子どもの安全対策について

法人の安全衛生委員会や興望館独自の安心・安全レベルアップ委員会を設置し、事故報告書の作成などリスクマネジメント体制を構築しており、ヒヤリハット報告は業務日誌に記録しているが事例の収集までは行っていません。子どもの事故発生を未然に防ぐために職員間で情報共有し再発防止策の検討・実施に結びつけて、子ども達にとって安心・安全な養育環境で生活ができるように更なる取組を期待します。

⑧第三者評価結果に対する施設のコメント

第三者評価を受審し、日々の社会的養護が必要な子ども達に対する支援、施設運営に対し、多角的、客観的な視点での評価をして頂くことで、自分たちの今までの振り返りとこれから取り組むべき課題を知る良い機会となりました。

高い評価をいただいた点については、「これでいい」と満足せず、子どもと向き合い、一緒に歩み、成長していくことを基本に、更なる向上を目指します。

また今回の受審で明らかになった課題及び自分たちで気づいた点については、改善に向け全職員で取り組んでいきます。

子ども達への利用者調査の結果についても全職員で真摯に受け止めます。これからも子ども一人一人の思いに寄り添い傾聴していくことを大切に、時代にも合わせた新たな支援の形も模索しながら尚一層信頼される施設、職員を目指します。

⑥第三者評価結果（別紙）

第三者評価結果（児童養護施設）

共通評価基準（45項目） I 養育・支援の基本方針と組織

1 理念・基本方針

(1) 理念、基本方針が確立・周知されている。	第三者 評価結果	
① 1 理念、基本方針が明文化され周知が図られている。	a	1
□理念、基本方針が文書(事業計画等の法人・施設内の文書や広報誌、パンフレット、ホームページ等)に記載されている。		
□理念は、法人・施設が実施する養育・支援の内容や特性を踏まえた法人・施設の使命や目指す方向、考え方を読み取ることができる。		
□基本方針は、法人の理念との整合性が確保されているとともに、職員の行動規範となるよう具体的な内容となっている。		
□理念や基本方針は、会議や研修会での説明、会議での協議等をもって、職員への周知が図られている。		
□理念や基本方針は、わかりやすく説明した資料を作成するなどの工夫がなされ、子どもや保護者等への周知が図られている。		
□理念や基本方針の周知状況を確認し、継続的な取組を行っている。		
【コメント】		
平成12年米沢市より社会福祉法人緑成会に業務委託となり、法人の理念・基本方針を共用している。職員は定例会議時に唱和して周知を図り、子どもの権利を尊重した支援に繋げている。保護者には芋煮会&レクリエーションの行事参加時に理念・基本方針・事業計画を配布している。		

2 経営状況の把握

(1) 経営環境の変化等に適切に対応している。	第三者 評価結果	
① 2 施設経営をとりまく環境と経営状況が的確に把握・分析されている。	a	2
□社会福祉事業全体の動向について、具体的に把握し分析している。		
□地域の各種福祉計画の策定動向と内容を把握し分析している。		
□子どもの数・子ども像等、養育・支援のニーズ、潜在的に支援を必要とする子どもに関するデータを収集するなど、法人・施設が位置する地域での特徴・変化等の経営環境や課題を把握し分析している。		
□定期的に養育・支援のコスト分析や施設入所を必要とする子どもの推移、利用率等の分析を行っている。		
【コメント】		
法人・米沢市と連携しながら事業全体の経営状況を把握・分析し、平成28年度から3年間の短期経営計画の中で目標を設定して安定的な経営に臨んでいる。山形県の推進計画にもとづき、子どもの入所者数の動向を把握している。		

②	3 経営課題を明確にし、具体的な取組を進めている。	b	3
	<input type="checkbox"/> 経営環境や養育・支援の内容、組織体制や設備の整備、職員体制、人材育成、財務状況等の現状分析にもとづき、具体的な課題や問題点を明らかにしている。		
	<input type="checkbox"/> 経営状況や改善すべき課題について、役員(理事・監事等)間での共有がなされている。		
	<input type="checkbox"/> 経営状況や改善すべき課題について、職員に周知している。		
	<input type="checkbox"/> 経営課題の解決・改善に向けて具体的な取組が進められている。		
【コメント】			
平成41年までの厚生労働省の方針である家庭的養護推進計画は米沢市と協議中であり、具体的な案は決まっていない。今年度から職員の人事考課制度を取り入れ、人材の確保・育成と職員の意識・専門性の向上に取り組んでいる。			

3 事業計画の策定

(1) 中・長期的なビジョンと計画が明確にされている。		第三者 評価結果	
①	4 中・長期的なビジョンを明確にした計画が策定されている。	b	4
	<input type="checkbox"/> 中・長期計画において、理念や基本方針の実現に向けた目標(ビジョン)を明確にしている。		
	<input type="checkbox"/> 中・長期計画は、経営課題や問題点の解決・改善に向けた具体的な内容となっている。		
	<input type="checkbox"/> 中・長期計画は、数値目標や具体的な成果等を設定することなどにより、実施状況の評価を行える内容となっている。		
	<input type="checkbox"/> 中・長期計画は必要に応じて見直しを行っている。		
【コメント】			
法人合同の中・長期計画を今年度末までの予定で策定中であり、会議には館長も参加している。中・長期の目標を掲げ、法人として組織全体が目指す姿を明記している。			

②	5 中・長期計画を踏まえた単年度の計画が策定されている。	b	5
	<input type="checkbox"/> 単年度の計画には、中・長期計画の内容を反映した単年度における事業内容が具体的に示されている。		
	<input type="checkbox"/> 単年度の事業計画は、実行可能な具体的な内容となっている。		
	<input type="checkbox"/> 単年度の事業計画は、単なる「行事計画」になっていない。		
	<input type="checkbox"/> 単年度の事業計画は、数値目標や具体的な成果等を設定することなどにより、実施状況の評価を行える内容となっている。		
【コメント】			
興望館単独の単年度の事業計画を作成し、米沢市・法人と連携しながら取り組んでいる。今年度のサービス提供における重点目標に利用満足度の向上を掲げ、児童自治会からの要望に沿って施設内にWi-fi回線(無線LAN)設置・高校生のスマートフォン利用などについて話し合いを重ねルールを決めて今年度から取り入れている。			

(2) 事業計画が適切に策定されている。

①	6 事業計画の策定と実施状況の把握や評価・見直しが組織的に行われ、職員が理解している。	b
	<input type="checkbox"/> 事業計画が、職員等の参画や意見の集約・反映のもとで策定されている。	
	<input type="checkbox"/> 計画期間中において、事業計画の実施状況が、あらかじめ定められた時期、手順にもとづいて把握されている。	
	<input type="checkbox"/> 事業計画が、あらかじめ定められた時期、手順にもとづいて評価されている。	
	<input type="checkbox"/> 評価の結果にもとづいて事業計画の見直しを行っている。	
	<input type="checkbox"/> 事業計画が、職員に周知(会議や研修会における説明等)されており、理解を促すための取組を行っている。	

6

【コメント】

事業計画は職員全員の意見を主務者がまとめて策定し、年度末に評価・見直しを行い、事業報告書として法人の評議員会で報告している。前年度の評価結果を反映させた次年度の事業計画は法人の理事会で承認を得て実施している。

②	7 事業計画は、子どもや保護者等に周知され、理解を促している。	b
	<input type="checkbox"/> 事業計画の主な内容が、子どもや保護者等に周知(配布、掲示、説明等)されている。	
	<input type="checkbox"/> 事業計画の主な内容を子ども会や保護者会等で説明している。	
	<input type="checkbox"/> 事業計画の主な内容を分かりやすく説明した資料を作成するなどの方法によって、子どもや保護者等がより理解しやすいような工夫を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 事業計画については、子どもや保護者等の参加を促す観点から周知、説明の工夫を行っている。	

7

【コメント】

毎月開催される児童自治会で事業計画の主な内容をわかりやすく説明し、年間行事などは子ども達にも浸透しており楽しみにしている。保護者には芋煮会&レクリエーションの行事に参加してもらったとき事業計画等を配布し、年4回発行の季刊誌「興望館だより」を送付して子どもの様子を知らせている。

4 養育・支援の質の向上への組織的・計画的な取組

(1) 質の向上に向けた取組が組織的・計画的に行われている。

第三者
評価結果

①	8 養育・支援の質の向上に向けた取組が組織的に行われ、機能している。	a
	<input type="checkbox"/> 組織的にPDCAサイクルにもとづく養育・支援の質の向上に関する取組を実施している。	
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の内容について組織的に評価(C: Check)を行う体制が整備されている。	
	<input type="checkbox"/> 定められた評価基準にもとづいて、年に1回以上自己評価を行うとともに、第三者評価等を定期的を受審している。	
	<input type="checkbox"/> 評価結果を分析・検討する場が、施設として位置づけられ実行されている。	

8

【コメント】

半期ごとに担当職員が中心となって作成する自立支援計画票を柱に、毎月短期目標を立案・実践・評価・翌月の目標立案と一貫したサイクルで子どもに対する支援を行い、毎月開催される支援会議で子ども全員について話し合い、情報を共有している。

②	9 評価結果にもとづき施設として取り組むべき課題を明確にし、計画的な改善策を実施している。	b
	<input type="checkbox"/> 評価結果を分析した結果やそれにもとづく課題が文書化されている。	
	<input type="checkbox"/> 職員間で課題の共有化が図られている。	
	<input type="checkbox"/> 評価結果から明確になった課題について、職員の参画のもとで改善策や改善計画を策定する仕組みがある。	
	<input type="checkbox"/> 評価結果にもとづく改善の取組を計画的に行っている。	
	<input type="checkbox"/> 改善策や改善の実施状況の評価を実施するとともに、必要に応じて改善計画の見直しを行っている。	

【コメント】

家庭的養護推進計画の推進や人材確保・育成等を課題に掲げ、米沢市・法人と連携しながら検討しており、第三者評価結果にもとづいた課題を明確にして改善策に取り組む体制ができている。

II 施設の運営管理

1 施設長の責任とリーダーシップ

(1) 施設長の責任が明確にされている。		第三者 評価結果
①	10 施設長は、自らの役割と責任を職員に対して表明し理解を図っている。	a
	<input type="checkbox"/> 施設長は、自らの施設の経営・管理に関する方針と取組を明確にしている。	
	<input type="checkbox"/> 施設長は、自らの役割と責任について、施設内の広報誌等に掲載し表明している。	
	<input type="checkbox"/> 施設長は、自らの役割と責任を含む職務分掌等について、文書化するとともに、会議や研修において表明し周知が図られている。	
	<input type="checkbox"/> 平常時のみならず、有事(災害、事故等)における施設長の役割と責任について、不在時の権限委任等を含め明確化されている。	

10

【コメント】

館長は年度初めに職務分担表を策定し、自らも含めた職員全員の役割分担を表明・文書化して配布している。平成12年より社会福祉法人緑成会の業務委託となり、契約・雇用関係などは理事長決済を得て連携しながら業務に取り組んでいる。

②	11 遵守すべき法令等を正しく理解するための取組を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 施設長は、遵守すべき法令等を十分に理解しており、利害関係者(取引事業者、行政関係者等)との適正な関係を保持している。	
	<input type="checkbox"/> 施設長は、法令遵守の観点での経営に関する研修や勉強会に参加している。	
	<input type="checkbox"/> 施設長は、環境への配慮等も含む幅広い分野について遵守すべき法令等を把握し、取組を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 施設長は、職員に対して遵守すべき法令等を周知し、また遵守するための具体的な取組を行っている。	

11

【コメント】

館長は山形県児童養護施設協議会や児童相談所など主催の外部研修会に積極的に参加し、知り得た情報は直近の引き継ぎ会で口頭で、また、重要なことは月1回の職員会議・支援会議でまとめて報告して職員に周知している。職員は法人理念や倫理綱領を理解して遵守している。

(2) 施設長のリーダーシップが発揮されている。

①	12 養育・支援の質の向上に意欲をもちその取組に指導力を発揮している。	a
	<input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質の現状について定期的、継続的に評価・分析を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質に関する課題を把握し、改善のための具体的な取組を明示して指導力を発揮している。	
	<input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質の向上について施設内に具体的な体制を構築し、自らもその活動に積極的に参画している。	
	<input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質の向上について、職員の意見を反映するための具体的な取組を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質の向上について、職員の教育・研修の充実を図っている。	
	<input type="checkbox"/> 施設長は、職員の模範となるように、自己研鑽に励み、専門性の向上に努めている。	

12

【コメント】

担当職員が子どもの月毎の短期目標を立案・実践・評価・翌月の目標立案のサイクルでの支援内容をまとめた資料をもとに、月1回の支援会議で子ども全員について話し合い館長のアドバイスも受けている。職員の外部研修は希望も取り入れるなど、積極的に支援している。

②	13 経営の改善や業務の実行性を高める取組に指導力を発揮している。	a
	<input type="checkbox"/> 施設長は、経営の改善や業務の実効性の向上に向けて、人事、労務、財務等を踏まえ分析を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 施設長は、施設(法人)の理念や基本方針の実現に向けて、人員配置、職員の働きやすい環境整備等、具体的に取り組んでいる。	
	<input type="checkbox"/> 施設長は、経営の改善や業務の実効性の向上に向けて、施設内に同様の意識を形成するための取組を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 施設長は、経営の改善や業務の実効性を高めるために施設内に具体的な体制を構築し、自らもその活動に積極的に参画している。	

13

【コメント】

職員は毎年自己目標「個別能力向上計画書」を作成し、本人・直属の上司・法人の3段階の評価を得て査定を行う人事考課制度を今年度から導入している。米沢市に要望して指定管理料の増額と職員の加配、塾の利用、私立高校進学許可などが今年度から実施されている。

2 福祉人材の確保・育成

(1) 福祉人材の確保・育成計画、人事管理の体制が整備されている。

第三者
評価結果

①	14 必要な福祉人材の確保・定着等に関する具体的な計画が確立し、取組が実施されている。	b
	<input type="checkbox"/> 必要な福祉人材や人員体制に関する基本的な考え方や、福祉人材の確保と育成に関する方針が確立している。	
	<input type="checkbox"/> 養育・支援に関わる専門職(有資格の職員)の配置等、必要な福祉人材や人員体制について具体的な計画がある。	
	<input type="checkbox"/> 計画にもとづいた福祉人材の確保や育成が実施されている。	
	<input type="checkbox"/> 法人・施設として、効果的な福祉人材確保(採用活動等)を実施している。	
	<input type="checkbox"/> 各種加算職員の配置に積極的に取り組み、人員体制の充実に努めている。	

14

【コメント】

現在人員の基準は充たされているが、夜勤に対応できる職員が少ないため夜や朝の子どもの世話にパートの職員を採用している。近年有資格者の人材確保がむずかしい状況にあるので、今までより計画的に大学等を訪問して採用できるよう取組が始まっている。

②	15 総合的な人事管理が行われている。	b	15
	<input type="checkbox"/> 法人・施設の理念・基本方針にもとづき「期待する職員像等」を明確にしている。		
	<input type="checkbox"/> 人事基準(採用、配置、異動、昇進・昇格等に関する基準)が明確に定められ、職員等に周知されている。		
	<input type="checkbox"/> 一定の人事基準にもとづき、職員の専門性や職務遂行能力、職務に関する成果や貢献度等を評価している。		
	<input type="checkbox"/> 職員処遇の水準について、処遇改善の必要性等を評価・分析するための取組を行っている。		
	<input type="checkbox"/> 把握した職員の意向・意見や評価・分析等にもとづき、改善策を検討・実施している。		
	<input type="checkbox"/> 職員が、自ら将来の姿を描くことができるような総合的な仕組みづくりができています。		

【コメント】

今年度法人で人事考課制度が導入され、仕事に対する努力や成果が十分に反映できるよう直属の上司や施設長が客観的に判断し、面接等を行い処遇の面にも反映されることで職員の士気も上がっている。期待する職員像として4つのH「ヘルス（健康）、ヘッド（知識）、ハンド（技術）、ハート（心）」を掲げ養育支援に取り組んでいる。

(2) 職員の就業状況に配慮がなされている。

①	16 職員の就業状況や意向を把握し、働きやすい職場づくりに取り組んでいる。	b	16
	<input type="checkbox"/> 職員の就業状況や意向の把握等にもとづく労務管理に関する責任体制を明確にしている。		
	<input type="checkbox"/> 職員の有給休暇の取得状況や時間外労働のデータを定期的に確認するなど、職員の就業状況を把握している。		
	<input type="checkbox"/> 職員の心身の健康と安全の確保に努め、その内容を職員に周知している。		
	<input type="checkbox"/> 定期的に職員との個別面談の機会を設ける、職員の悩み相談窓口を施設内に設置するなど、職員が相談しやすいような施設内の工夫をしている。		
	<input type="checkbox"/> 職員の希望の聴取等をもとに、総合的な福利厚生を実施している。		
	<input type="checkbox"/> ワーク・ライフ・バランスに配慮した取組を行っている。		
	<input type="checkbox"/> 改善策については、人材や人員体制に関する具体的な計画に反映し実行している。		
	<input type="checkbox"/> 人材の確保、定着の観点から、施設の魅力を高める取組や働きやすい職場づくりに関する取組を行っている。		

【コメント】

子育て世代の職員が多いので、早めに予定を聞き余裕のある勤務表を作成している。有給休暇やリフレッシュ休暇も付与され、ワーク・ライフ・バランスに配慮した勤務体制に努めている。

(3) 職員の質の向上に向けた体制が確立されている。

①	17 職員一人ひとりの育成に向けた取組を行っている。	a	17
	<input type="checkbox"/> 施設として「期待する職員像」を明確にし、職員一人ひとりの目標管理のための仕組みが構築されている。		
	<input type="checkbox"/> 個別面接を行う等施設の目標や方針を徹底し、コミュニケーションのもとで職員一人ひとりの目標が設定されている。		
	<input type="checkbox"/> 職員一人ひとりの目標の設定は、目標項目、目標水準、目標期限が明確にされた適切なものとなっている。		
	<input type="checkbox"/> 職員一人ひとりが設定した目標について、中間面接を行うなど、適切に進捗状況の確認が行われている。		
	<input type="checkbox"/> 職員一人ひとりが設定した目標について、年度当初・年度末(期末)面接を行うなど、目標達成度の確認を行っている。		

【コメント】

職員は個別能力向上計画書に一年間の目標を提出し、中間に全ての職員と館長は面接を行い、また個別に法人の意向を伝えている。法人の理事長や施設長が訪問し直接職員と顔を合わせる機会があり職員の士気向上に繋がっている。

②	18 職員の教育・研修に関する基本方針や計画が策定され、教育・研修が実施されている。	a	18
	<input type="checkbox"/> 施設が目指す養育・支援を実施するために、基本方針や計画の中に、「期待する職員像」を明示している。		
	<input type="checkbox"/> 現在実施している養育・支援の内容や目標を踏まえて、基本方針や計画の中に、施設が職員に必要とされる専門技術や専門資格を明示している。		
	<input type="checkbox"/> 策定された教育・研修計画にもとづき、教育・研修が実施されている。		
	<input type="checkbox"/> 定期的に計画の評価と見直しを行っている。		
	<input type="checkbox"/> 定期的に研修内容やカリキュラムの評価と見直しを行っている。		

【コメント】

研修計画は年度始めに策定し参加している。全国児童養護施設連絡協議会・保育士関係・学校教職員参加の発達障害についてなどの研修等にも積極的に参加して学んでいる。また継続研修としてSST（ソーシャルスキルトレーニング）研修はすでにサードステップに進んでおり現場においても効果を表している。

③	19 職員一人ひとりの教育・研修の機会が確保されている。	a	19
	<input type="checkbox"/> 個別の職員の知識、技術水準、専門資格の取得状況等を把握している。		
	<input type="checkbox"/> 新任職員をはじめ職員の経験や習熟度に配慮した個別的なOJTが適切に行われている。		
	<input type="checkbox"/> 階層別研修、職種別研修、テーマ別研修等の機会を確保し、職員の職務や必要とする知識・技術水準に応じた教育・研修を実施している。		
	<input type="checkbox"/> 外部研修に関する情報提供を適切に行うとともに、参加を勧奨している。		
	<input type="checkbox"/> 職員一人ひとりが、教育・研修の場に参加できるよう配慮している。		

【コメント】

中途採用の職員には内部研修を行い、適切なOJT(働きながらの学び)が行われている。職員の希望する研修、階層別研修参加後は規定の用紙にまとめて報告し、全職員がファイルし共有している。

(4) 実習生等の養育・支援に関わる専門職の研修・育成が適切に行われている。

①	20 実習生等の養育・支援に関わる専門職の教育・育成について体制を整備し、積極的な取組をしている。	b	20
	<input type="checkbox"/> 実習生等の養育・支援に関わる専門職の教育・育成に関する基本姿勢を明文化している。		
	<input type="checkbox"/> 実習生等の養育・支援の専門職の教育・育成についてのマニュアルが整備されている。		
	<input type="checkbox"/> 専門職種の特性に配慮したプログラムを用意している。		
	<input type="checkbox"/> 指導者に対する研修を実施している。		
	<input type="checkbox"/> 実習生については、学校側と、実習内容について連携してプログラムを整備するとともに、実習期間中においても継続的な連携を維持していくための工夫を行っている。		

【コメント】

実習生受け入れマニュアルに沿って受け入れている。保育実習にきた学生が入職に繋がった例もある。また里親登録前の方の実習受け入れもあり県で決められた項目に沿って実施している。

3 運営の透明性の確保

(1) 運営の透明性を確保するための取組が行われている。	第三者 評価結果	21
① 21 運営の透明性を確保するための情報公開が行われている。 <input type="checkbox"/> ホームページ等の活用により、法人・施設の理念や基本方針、養育・支援の内容、事業計画、事業報告、予算、決算情報が適切に公開されている。 <input type="checkbox"/> 施設における地域の福祉向上のための取組の実施状況、第三者評価の受審、苦情・相談の体制や内容について公表している。 <input type="checkbox"/> 第三者評価の受審結果、苦情・相談の体制や内容にもとづく改善・対応の状況について公表している。 <input type="checkbox"/> 法人・施設の理念、基本方針やビジョン等について、社会・地域に対して明示・説明し、法人・施設の存在意義や役割を明確にするように努めている。 <input type="checkbox"/> 地域へ向けて、理念や基本方針、施設で行っている活動等を説明した印刷物や広報誌等を配布している。	a	21
【コメント】 法人の広報誌や興望館の季刊誌・ホームページに理念・事業計画を掲載し、保護者や関係機関等に配布して理解を得ている。		
② 22 公正かつ透明性の高い適正な経営・運営のための取組が行われている。 <input type="checkbox"/> 施設における事務、経理、取引等に関するルールが明確にされ、職員等に周知している。 <input type="checkbox"/> 施設における事務、経理、取引等に関する職務分掌と権限・責任が明確にされ、職員等に周知している。 <input type="checkbox"/> 施設における事務、経理、取引等について、必要に応じて外部の専門家に相談し、助言を得ている。 <input type="checkbox"/> 施設における事務、経理、取引等について内部監査を実施するなど、定期的に確認されている。 <input type="checkbox"/> 外部監査の活用等により、事業、財務に関する外部の専門家によるチェックを行っている。 <input type="checkbox"/> 外部監査の結果や公認会計士等による指導や指摘事項にもとづいて、経営改善を実施している。	a	22
【コメント】 市の指定管理を受けているので、市の財政課や子ども課等の監査もある。施設の会計については、外部監査を行い適切な運営に努めている。		

4 地域との交流、地域貢献

(1) 地域との関係が適切に確保されている。	第三者 評価結果	23
① 23 子どもと地域との交流を広げるための取組を行っている。 <input type="checkbox"/> 地域との関わり方について基本的な考え方を文書化している。 <input type="checkbox"/> 子どもの個別的状況に配慮しつつ地域の行事や活動に参加する際、必要があれば職員やボランティアが支援を行う体制が整っている。 <input type="checkbox"/> 施設や子どもへの理解を得るために、地域の人々に向けた日常的なコミュニケーションを心がけている。 <input type="checkbox"/> 子どもの買い物や通院等日常的な活動についても、定型的でなく個々の子どものニーズに応じて、地域における社会資源を利用するよう推奨している。 <input type="checkbox"/> 学校の友人等が施設へ遊びに来やすい環境づくりを行っている。	b	23
【コメント】 春に館長が町内にあいさつ回りをすることを慣例としている。また館長は児童民生委員として会議等に出席し関係者と交流を深め情報交換している。地元の夏祭りに声をかけてもらい子ども達が参加し、地元の子が遊びに来ることもあり双方向な交流をしている。		

②	24 ボランティア等の受入れに対する基本姿勢を明確にし体制を確立している。	a	24
	<input type="checkbox"/> ボランティア受入れに関する基本姿勢を明文化している。		
	<input type="checkbox"/> 地域の学校教育等への協力について基本姿勢を明文化している。		
	<input type="checkbox"/> ボランティア受入れについて、登録手続、ボランティアの配置、事前説明等に関する項目が記載されたマニュアルを整備している		
	<input type="checkbox"/> ボランティアに対して子どもとの交流を図る視点等で必要な研修、支援を行っている。		
	<input type="checkbox"/> 学校教育への協力を行っている。		

【コメント】

ボランティア受け入れ窓口を設置し体制を整えている。また子ども達と関わるうえでの約束事を明記し、同意書を提出してもらっている。毎週学習ボランティアの学生が来てくれており、里親登録している方が遊びボランティアとして子ども達と交流している。

(2) 関係機関との連携が確保されている。

①	25 施設として必要な社会資源を明確にし、関係機関等との連携が適切に行われている。	a	25
	<input type="checkbox"/> 当該地域の関係機関・団体について、個々の子どもの状況に対応できる社会資源を明示したリストや資料を作成している。		
	<input type="checkbox"/> 職員会議で説明するなど、職員間で情報の共有化が図られている。		
	<input type="checkbox"/> 関係機関・団体と定期的な連絡会等を行っている。		
	<input type="checkbox"/> 地域の関係機関・団体の共通の問題に対して、解決に向けて協働して具体的な取組を行っている。		
	<input type="checkbox"/> 地域に適切な関係機関・団体がない場合には、子どものアフターケア等を含め、地域でのネットワーク化に取り組んでいる。		

【コメント】

学校や保育園の行事等は保護者に参加してもらい、来れない時は児童相談所や興望館の職員が行き養育・支援のための連携はスムーズに行われている。課題の多い子は頻りにケース検討会を実施し、警察等とも連携を図り問題が生じた場合はすみやかに対処している。

(3) 地域の福祉向上のための取組を行っている。

①	26 施設が有する機能を地域に還元している。	b	26
	<input type="checkbox"/> 施設のスペースを活用して地域住民との交流を意図した取組を行っている。		
	<input type="checkbox"/> 施設の専門性や特性を活かし、地域住民の生活に役立つ講演会や研修会等を開催して、地域へ参加を呼びかけている。		
	<input type="checkbox"/> 施設の専門性や特性を活かした相談支援事業、支援を必要とする地域住民のためのサークル活動等、地域ニーズに応じ住民が自由に参加できる多様な支援活動を行っている。		
	<input type="checkbox"/> 災害時の地域における役割等について確認がなされている。		
	<input type="checkbox"/> 多様な機関等と連携して、社会福祉分野に限らず地域の活性化やまちづくりに貢献している。		

【コメント】

施設独自の取組として年6回子ども達と近所のゴミ拾いをし、自分達の住む地域への貢献活動の一環として清掃活動を行っている。今年度、更生保護女性会に招かれ、館長が児童養護施設の状況について講演し理解と啓発を行っている。

②	27 地域の福祉ニーズにもとづく公益的な事業・活動が行われている。	b
	<input type="checkbox"/> 施設の機能を地域に還元することなどを通じて、地域の福祉ニーズの把握に努めている。	
	<input type="checkbox"/> 民生委員・児童委員等と定期的な会議を開催するなどによって、具体的な福祉ニーズの把握に努めている。	
	<input type="checkbox"/> 地域住民に対する相談事業を実施することなどを通じて、多様な相談に応じる機能を有している。	
	<input type="checkbox"/> 関係機関・団体との連携にもとづき、具体的な福祉ニーズの把握に努めている。	
	<input type="checkbox"/> 把握した福祉ニーズにもとづいて、法で定められた社会福祉事業にとどまらない地域貢献に関わる事業・活動を実施している。	
	<input type="checkbox"/> 把握した福祉ニーズにもとづいた具体的な事業・活動を、計画等で明示している。	

27

【コメント】

法人が幅広い福祉事業を展開しているので、情報は常に共有できている。委託事業としてトワイライトステイとショートステイを行っており、急な親の入院などで隣の保育園児を受け入れたこともある。

Ⅲ 適切な養育・支援の実施

1 子ども本位の養育・支援

(1)	子どもを尊重する姿勢が明示されている。	第三者 評価結果
①	28 子どもを尊重した養育・支援の実施について共通の理解をもつための取組を行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 理念や基本方針に、子どもを尊重した養育・支援の実施について明示し、職員が理解し実践するための取組を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 子どもを尊重した養育・支援の実施に関する「倫理綱領」や規程等を策定し、職員が理解し実践するための取組を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 子どもを尊重した養育・支援実施に関する基本姿勢が、個々の養育・支援の標準的な実施方法等に反映されている。	
	<input type="checkbox"/> 子どもの尊重や基本的人権への配慮について、施設で勉強会・研修を実施している。	
	<input type="checkbox"/> 子どもの尊重や基本的人権への配慮について、定期的に状況の把握・評価等を行い、必要な対応を図っている。	

28

【コメント】

法人理念や倫理綱領は玄関にも掲示し、職員は常に子どもを尊重した養育・支援を行っている。また「山形県被措置対応児童虐待マニュアル」と施設独自のマニュアルを全職員に配布し、意識の向上を図っている。

②	29 子どものプライバシー保護等の権利擁護に配慮した養育・支援の実施が行われている。	b	
	<input type="checkbox"/> 子どものプライバシー保護について、規程・マニュアル等が整備され、職員の理解が図られている。		
	<input type="checkbox"/> 子どもの虐待防止等の権利擁護について、規程・マニュアル等が整備され、職員の理解が図られている。		
	<input type="checkbox"/> 子どものプライバシー保護と虐待防止に関する知識、社会福祉事業に携わる者としての姿勢・責務、子どものプライバシー保護や権利擁護に関する規程・マニュアル等について、職員に研修を実施している。		
	<input type="checkbox"/> 一人ひとりの子どもにとって、生活の場にふさわしい快適な環境を提供し、子どものプライバシーを守るよう設備等の工夫を行っている。		
	<input type="checkbox"/> 子どもや保護者等にプライバシー保護と権利擁護に関する取組を周知している。		
	<input type="checkbox"/> 規程・マニュアル等にもとづいた養育・支援が実施されている。		
	<input type="checkbox"/> 不適切な事案が発生した場合の対応方法等が明示されている。		

29

【コメント】

大舎制で難しい面もあるが子どもにとって職員の居室への立ち入りが一番敏感なのでプライバシーには十分配慮している。独自に「触れあいマニュアル」を策定し、職員は携帯番号を教えない、私有車に乗せない、自宅に招かないなど高いコンプライアンス意識で誤解を与えることのないようチームとして取り組んでいる。

(2) 養育・支援の実施に関する説明と同意（自己決定）が適切に行われている。

①	30 子どもや保護者等に対して養育・支援の利用に必要な情報を積極的に提供している。	a	
	<input type="checkbox"/> 理念や基本方針、養育・支援の内容や施設の特性等を紹介した資料を準備している。		
	<input type="checkbox"/> 施設を紹介する資料は、言葉遣いや写真・図・絵の使用等で誰にでもわかるような内容にしている。		
	<input type="checkbox"/> 施設に入所予定の子どもや保護者等については、個別に丁寧な説明を実施している。		
	<input type="checkbox"/> 見学等の希望に対応している。		
	<input type="checkbox"/> 子どもや保護者等に対する情報提供について、適宜見直しを実施している。		

30

【コメント】

児童相談所からの情報提供を受け、一時保護所に面会に行く、見学にきてもらうなど適切に対応し、施設側の情報提供も行い入所に際しての不安解消に努めている。

②	31 養育・支援の開始・過程において子どもや保護者等にわかりやすく説明している。	b	
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の開始・過程における養育・支援の内容に関する説明と同意にあたっては、子どもや保護者等の自己決定を尊重している。		
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の開始・過程においては、子どもや保護者等がわかりやすいように工夫した資料を用いて説明している。		
	<input type="checkbox"/> 説明にあたっては、子どもや保護者等が理解しやすいような工夫や配慮を行っている。		
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の開始・過程においては、子どもや保護者等の同意を得たうえでその内容を書面で残している。		
	<input type="checkbox"/> 意思決定が困難な子どもや保護者等への配慮についてルール化され、適正な説明、運用が図られている。		

31

【コメント】

養育・支援の開始にあたっては施設側から子どもや保護者に対して援助方法等や決まり事の説明を丁寧に行っている。受け入れ時は担当職員を決めておき早く施設に馴染めるよう取り組んでいる。

③	32 措置変更や地域・家庭への移行等にあたり養育・支援の継続性に配慮した対応を行っている。	b
---	---	---

32

<input type="checkbox"/> 養育・支援の内容の変更にあたり、従前の内容から著しい変更や不利益が生じないように配慮されている。	
<input type="checkbox"/> 他の施設や地域・家庭への移行にあたり、養育・支援の継続性に配慮した手順と引継ぎ文書を定めている。	
<input type="checkbox"/> 施設を退所した後も、施設として子どもや保護者等が相談できるように担当者や窓口を設置している。	
<input type="checkbox"/> 施設を退所した時に、子どもや保護者等に対し、その後の相談方法や担当者について説明を行い、その内容を記載した文書を渡している。	

【コメント】

関係機関とは常に連絡を取りケース会議を開き伝えている。今年に入り家庭復帰した子どももあり、地域・家庭への移行後も引き続き支援の窓口は設置している。さらに文書等でも伝えられるよう期待したい。

(3) 子どもの満足の向上に努めている。

第三者
評価結果

① 33 子どもの満足の向上を目的とする仕組みを整備し、取組を行っている。	a
<input type="checkbox"/> 子どもの満足に関する調査が定期的に行われている。	
<input type="checkbox"/> 子どものへの個別の相談面接や聴取等が、子どもの満足を把握する目的で定期的に行われている。	
<input type="checkbox"/> 職員等が、子どもの満足を把握する目的で、子ども会等に出席している。	
<input type="checkbox"/> 子どもの満足に関する調査の担当者等の設置や、把握した結果を分析・検討するために、子ども参画のもとで検討会議の設置等が行われている。	
<input type="checkbox"/> 分析・検討の結果にもとづいて具体的な改善を行っている。	

33

【コメント】

子ども達は児童自治会を組織しており、会長が一年間リーダーを務めている。月末に小学4年以上が参加して司会・書記を決めて意見を聞いている。様々な要求等もありできることはすぐに改善に繋いでいる。また子ども達が自ら気を付けようと意見も出るなど生活の改善に取り組んでいる。さらに頑張っている事、努力したことなどを、保護者や関係者の集まる芋煮会&レクリエーション大会時に表彰状を贈っており、子ども達にとっては喜びと励みになっている。

(4) 子どもが意見等を述べやすい体制が確保されている。

① 34 苦情解決の仕組みが確立しており、周知・機能している。	a
<input type="checkbox"/> 苦情解決の体制(苦情解決責任者の設置、苦情受付担当者の設置、第三者委員の設置)が整備されている。	
<input type="checkbox"/> 苦情解決の仕組みをわかりやすく説明した掲示物が掲示され、資料を子どもや保護者等に配布し説明している。	
<input type="checkbox"/> 苦情記入カードの配布やアンケート(匿名)を実施するなど、子どもや保護者等が苦情を申し出しやすい工夫を行っている。	
<input type="checkbox"/> 苦情内容については、受付と解決を図った記録が適切に保管している。	
<input type="checkbox"/> 苦情内容に関する検討内容や対応策については、子どもや保護者等に必ずフィードバックしている。	
<input type="checkbox"/> 苦情内容及び解決結果等は、苦情を申し出た子どもや保護者等に配慮したうえで、公表している。	
<input type="checkbox"/> 苦情相談内容にもとづき、養育・支援の質の向上に関わる取組が行われている。	

34

【コメント】

法人内に苦情解決責任者と第三者委員を設置し保護者には入所当初に知らせている。苦情や意見があった場合は当人への経過や結果の説明、正確な記録に努めるよう手順を決めている。

②	35 子どもが相談や意見を述べやすい環境を整備し、子ども等に周知している。	b	35
	<input type="checkbox"/> 子どもが相談したり意見を述べたりする際に、複数の方法や相手を自由に選べることをわかりやすく説明した文書を作成している。		
	<input type="checkbox"/> 子どもや保護者等に、その文章の配布やわかりやすい場所に掲示する等の取組を行っている。		
	<input type="checkbox"/> 相談をしやすい、意見を述べやすいスペースの確保等の環境に配慮している。		

【コメント】

子どもからの意見は児童自治会開催時や職員が個別に聞くなどし、暮らしやすい環境づくりを目指している。どうしても障害を持っている子に関わりが多くなることで、他の子どもが差別感をいなくならないよう平等と正義についての認識の共有を図っている。

③	36 子どもからの相談や意見に対して、組織的かつ迅速に対応している。	b	36
	<input type="checkbox"/> 相談や意見を受けた際の記録の方法や報告の手順、対応策の検討等について定めたマニュアル等を整備している。		
	<input type="checkbox"/> 対応マニュアル等の定期的な見直しを行っている。		
	<input type="checkbox"/> 職員は、日々の養育・支援の実施において、子どもが相談しやすく意見を述べやすいように配慮し、適切な相談対応と意見の傾聴に努めている。		
	<input type="checkbox"/> 意見箱の設置、アンケートの実施等、子どもの意見を積極的に把握する取組を行っている。		
	<input type="checkbox"/> 職員は、把握した相談や意見について、検討に時間がかかる場合に状況を速やかに説明することを含め迅速な対応を行っている。		
	<input type="checkbox"/> 意見等にもとづき、養育・支援の質の向上に関わる取組が行われている。		

【コメント】

児童自治会に参加した職員から、その中の意見や要望を文書化し共有している。部署会議等で検討し買い物や衛生面などについては迅速に対応している。個人の食べたいものへの要求は必ずしも応えられないことを理解してもらっている。

(5) 安心・安全な養育・支援の実施のための組織的な取組が行われている。		第三者 評価結果	
①	37 安心・安全な養育・支援の実施を目的とするリスクマネジメント体制が構築されている。	b	37
	<input type="checkbox"/> リスクマネジメントに関する責任者の明確化(リスクマネジャーの選任・配置)、リスクマネジメントに関する委員会を設置するなどの体制を整備している。		
	<input type="checkbox"/> 事故発生時の対応と安全確保について責任、手順(マニュアル)等を明確にし、職員に周知している。		
	<input type="checkbox"/> 子どもの安心と安全を脅かす事例の収集が積極的に行われている。		
	<input type="checkbox"/> 収集した事例をもとに、職員の参画のもとで発生要因を分析し、改善策・再発防止策を検討・実施する等の取組が行われている。		
	<input type="checkbox"/> 職員に対して、安全確保・事故防止に関する研修を行っている。		
	<input type="checkbox"/> 事故防止策等の安全確保策の実施状況や実効性について、定期的に評価・見直しを行っている。		

【コメント】

法人の安全衛生委員会や独自の安心・安全レベルアップ委員会を設置し、事故報告書の作成などリスクマネジメント体制を構築しており、ヒヤリハット報告は業務日誌に記録しているが事例の収集までは行っていない。子どもの事故発生を未然に防ぐために職員間で情報共有して再発防止策の検討・実施を望みたい。

②	38 感染症の予防や発生時における子どもの安全確保のための体制を整備し、取組を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 感染症対策について、責任と役割を明確にした管理体制が整備されている。	
	<input type="checkbox"/> 感染症の予防と発生時等の対応マニュアル等を作成し、職員に周知徹底している。	
	<input type="checkbox"/> 担当者等を中心にして、定期的に感染症の予防や安全確保に関する勉強会等を開催している。	
	<input type="checkbox"/> 感染症の予防策が適切に講じられている。	
	<input type="checkbox"/> 感染症の発生した場合には対応が適切に行われている。	
	<input type="checkbox"/> 感染症の予防と発生時等の対応マニュアル等を定期的に見直している。	

38

【コメント】

予防を第一に考え担当の職員が中心となって継続的に研修会に参加し、マニュアルを整備して感染症対策を職員全員に周知徹底している。インフルエンザ予防注射は施設負担で子ども・職員全員が接種しており、発生した場合は医務室での隔離や使い捨て食器を使用するなど拡大防止に取り組んでいる。

③	39 災害時における子どもの安全確保のための取組を組織的に行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 災害時の対応体制が決められている。	
	<input type="checkbox"/> 立地条件等から災害の影響を把握し、建物・設備類、養育・支援を継続するために必要な対策を講じている。	
	<input type="checkbox"/> 子ども及び職員の安否確認の方法が決められ、すべての職員に周知されている。	
	<input type="checkbox"/> 食料や備品類等の備蓄リストを作成し、管理者を決めて備蓄を整備している。	
	<input type="checkbox"/> 防災計画等整備し、地域の行政をはじめ、消防署、警察、自治会、福祉関係団体等と連携するなど、体制をもって訓練を実施している。	

39

【コメント】

防災訓練年間計画を作成し毎月様々な災害を想定し年1回は消防署立ち合いのもと、子どもの安全を最優先に迅速な避難ができるよう災害訓練を実施している。子ども全員の名前・誕生日・血液型が記入してあるヘルメットが用意され、非常持ち出し袋・非常食・発電機・AEDなどを整備し災害に備えている。

2 養育・支援の質の確保

(1) 養育・支援の標準的な実施方法が確立している。	第三者 評価結果
①	
40 養育・支援について標準的な実施方法が文書化され養育・支援が実施されている。	b
<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法が適切に文書化されている。	
<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法には、子どもの尊重、プライバシーの保護や権利擁護に関わる姿勢が明示されている。	
<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法について、研修や個別の指導等によって職員に周知徹底するための方策を講じている。	
<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法にもとづいて実施されているかどうかを確認する仕組みがある。	

40

【コメント】

子どもへの対応を統一するためのマニュアルは文書化され職員は理解して養育・支援を実施し、個別的な内容や急を要することは日勤・夜勤のリーダーが中心となって臨機応変に対処している。全職員で常に話し合い情報を共有し、チームワークを図りながら愛情をもって支援している。

②	41 標準的な実施方法について見直しをする仕組みが確立している。	a	41
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の標準的な実施方法の検証・見直しに関する時期やその方法が施設で定められている。		
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の標準的な実施方法の検証・見直しが定期的に行われている。		
	<input type="checkbox"/> 検証・見直しにあたり、自立支援計画の内容が必要に応じて反映されている。		
	<input type="checkbox"/> 検証・見直しにあたり、職員や子ども等からの意見や提案が反映されるような仕組みになっている。		

【コメント】

子どもには月毎の短期目標を立案・実践・評価・翌月の目標立案のサイクルで支援が実施され、担当職員が内容をまとめた資料を作成し、月1回の支援会議で子ども全員について検証・見直しを行っている。児童自治会から提出された意見要望書について検討し返答している。

(2) 適切なアセスメントにより自立支援計画が策定されている。

①	42 アセスメントにもとづく個別的な自立支援計画を適切に策定している。	a	42
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画策定の責任者を設置している。		
	<input type="checkbox"/> アセスメント手法が確立され、適切なアセスメントが実施されている。		
	<input type="checkbox"/> 部門を横断したさまざまな職種の関係職員（種別によっては施設以外の関係者も）が参加して、アセスメント等に関する協議を実施している。		
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画には、子ども一人ひとりの具体的なニーズが明示されている。		
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画を策定するための部門を横断したさまざまな職種による関係職員（種別によっては組織以外の関係者も）の合議、子どもの意向把握と同意を含んだ手順を定めて実施している。		
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画どおりに養育・支援が行われていることを確認する仕組みが構築され、機能している。		
	<input type="checkbox"/> 支援困難ケースへの対応について検討し、積極的かつ適切な養育・支援が行われている。		

【コメント】

児童相談所からのアセスメントシートを参考にしながら入所時に興望館独自のアセスメントシートを年齢別（幼児用・学齢児用）に作成している。子どもと話し合ったニーズにもとづき、心理療法士、学校などの関係機関と連携し館長からの意見欄もあり、それらを集約した自立支援計画を担当職員が中心となって策定している。

②	43 定期的に自立支援計画の評価・見直しを行っている。	a	43
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画の見直しについて、見直しを行う時期、検討会議の参加職員、子どもの意向把握と同意を得るための手順等、組織的な仕組みを定めて実施している。		
	<input type="checkbox"/> 見直しによって変更した自立支援計画の内容を、関係職員に周知する手順を定めて実施している。		
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画を緊急に変更する場合の仕組みを整備している。		
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画の評価・見直しにあたっては、標準的な実施方法に反映すべき事項、養育・支援を十分に実施できていない内容(ニーズ)等、養育・支援の質の向上に関わる課題等が明確にされている。		

【コメント】

自立支援計画の評価・見直しは前期・後期の年2回実施し、外部・内部の努力目標を設定して達成時には館長から「表彰状」として贈り子ども達の喜びや向上に繋げている。月毎の短期目標は支援会議で評価・見直しを行い、翌月に反映させる体制を構築している。

(3) 養育・支援の実施の記録が適切に行われている。			
①	44 子どもに関する養育・支援の実施状況の記録が適切に行われ、職員間で共有化している。	a	44
	<input type="checkbox"/> 子どもの身体状況や生活状況等を、施設が定めた統一した様式によって把握し記録している。		
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画にもとづく養育・支援が実施されていることを記録により確認することができる。		
	<input type="checkbox"/> 記録する職員で記録内容や書き方に差異が生じないように、記録要領の作成や職員への指導等の工夫をしている。		
	<input type="checkbox"/> 施設における情報の流れが明確にされ、情報の分別や必要な情報が的確に届くような仕組みが整備されている。		
	<input type="checkbox"/> 情報共有を目的とした会議の定期的な開催等、部門横断での取組がなされている。		
	<input type="checkbox"/> パソコンのネットワークシステムの利用や記録ファイルの回覧等を実施して、施設内で情報を共有する仕組みが整備されている。		

【コメント】

業務日誌は日勤帯と夜勤帯に分けて記入し、パソコンのネットワーク回線で記録様式の統一を図り職員は閲覧すると共に、毎日朝と午後に行われる引継ぎ会で情報を共有している。個別のケース記録にも定期的に記録しファイルしている。

②	45 子どもに関する記録の管理体制が確立している。	a	45
	<input type="checkbox"/> 個人情報保護規程等により、子どもの記録の保管、保存、廃棄、情報の提供に関する規定を定めている。		
	<input type="checkbox"/> 個人情報の不適正な利用や漏えいに対する対策と対応方法が規定されている。		
	<input type="checkbox"/> 記録管理の責任者が設置されている。		
	<input type="checkbox"/> 記録の管理について個人情報保護の観点から、職員に対し教育や研修が行われている。		
	<input type="checkbox"/> 職員は、個人情報保護規程等を理解し、遵守している。		
	<input type="checkbox"/> 個人情報の取扱いについて、子どもや保護者等に説明している。		

【コメント】

法人で規程を整備して職員は周知徹底しており、電子データは施設外に持ち出し禁止となっている。子どもの個人情報の取り扱いについては入所時に保護者に説明して確認を得ており、細心の注意を払い情報漏えい防止に施設全体で取り組んでいる。

内容評価基準（41項目） A-1 子ども本位の養育・支援

(1) 子どもの尊重と最善の利益の考慮		第三者 評価結果	
①	A1 社会的養護が子どもの最善の利益を目指して行われることを職員が共通して理解し、日々の養育・支援において実践している。	b	A1
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の内容が子どもにとって最善の利益になっているかを、振り返り検証する機会が設けられている。		
	<input type="checkbox"/> 子どもの養育や成長にとって何が最善なのかを、職員間において常に話し合える環境にある。		
	<input type="checkbox"/> 職員が日々子どもとのやり取りを振り返り、必要に応じてスーパービジョンを受けられる環境が整っている。		
	<input type="checkbox"/> 受容的・支持的なかかわりを基本としながらも、養育者として伝えるべきメッセージはきちんと伝えるなど、子どもの状況に応じて適切な対応ができるよう、常に子どもの最善の利益を考慮し真摯に向き合っている。		
【コメント】 子どもの担当職員2名は常に連携し、定例会議で子ども全員の情報を共有した養育・支援が行われている。児童相談所の担当福祉司や学校との連絡会を通して情報交換を行い子どもの状況に応じた最善の利益を目指し、さらにSV（スーパーバイザー）のアドバイスを受ける体制を整え機能している。			
②	A2 子どもの発達段階に応じて、子ども自身の出生や生い立ち、家族の状況について、子どもに適切に知らせている。	b	A2
	<input type="checkbox"/> 子どもの発達段階等に応じて、適切に事実を伝えようと努めている。		
	<input type="checkbox"/> 事実を伝える場合には、個別の事情に応じて慎重に対応している。		
	<input type="checkbox"/> 伝え方や内容などについて職員会議等で確認し、職員間で共有している。		
	<input type="checkbox"/> 事実を伝えた後、子どもの変容などを十分把握するとともに、適切なフォローを行っている。		
【コメント】 児童相談所の担当福祉司と連携をとりながら、担当職員と家庭支援専門相談員が相談して発達段階の節目やタイミングをみて子ども自身の出生や生い立ちを知らせている。内容は真実告知（適切な情報）を考慮し、伝えた後は動揺などないか職員全員できめ細かく見守っている。			
(2) 権利についての説明			
①	A3 子どもに対し、権利について正しく理解できるよう、わかりやすく説明している。	b	A3
	<input type="checkbox"/> 定期的に全体の場で権利についての理解を深めるよう、子どもたちに説明している。		
	<input type="checkbox"/> 権利ノートやそれに代わる資料等を使用して、施設生活の中で保障されるさまざまな権利についてわかりやすく説明している。		
	<input type="checkbox"/> 年齢に配慮した説明を工夫している。（例えば高校生、中学生、小学生などに分けた説明の機会）		
	<input type="checkbox"/> 定期的に職員間で子どもの権利に関する学習機会を持っている。		
【コメント】 権利と義務についてきちんと理解できるように子どもにわかりやすく説明している。子どもが不満、差別、自分が一番などを主張するときは他人を思いやることをSST（ソーシャルスキルトレーニング）を通して理解できるよう取り組んでいる。			

(3) 他者の尊重

①	A4 様々な生活体験や多くの人たちとのふれあいを通して、他者への心づかいや他者の立場に配慮する心が育まれるよう支援している。	a
	<input type="checkbox"/> 基本的な信頼感を獲得するなど良好な人間関係を築くために職員と子どもとが個別にふれあう時間を確保している。	
	<input type="checkbox"/> 喧嘩など子ども間でトラブルが生じた場合、相手の人格を尊重しながら、基本的には子ども同士で関係を修復できるよう支援をしている。	
	<input type="checkbox"/> 日々の生活や行事等で、子どもが協働して行う場面では、助け合い、認め合い、協力し合い、感謝し合う態度を促進するよう支援している。	
	<input type="checkbox"/> 年下の子どもや障がいのある子どもなど弱い立場にある仲間に対しては、思いやりの心をもって接するよう支援している。	

A4

【コメント】

SSTのセカンドステップ（小学生向け）、サードステップ（中学生向け）、セカンドステップゼロ（幼児向け）を継続、充実させたことで生活場面に生かす効果が表れている。担当職員と子どもが自立支援室で一緒に調理して楽しみながら食す「部屋会」を開催し、買い物・外出など個別のニーズにも対応して信頼関係に繋げている。

(4) 被措置児童等虐待対応

①	A5 いかなる場合においても体罰や子どもの人格を辱めるような行為を行わないよう徹底している。	a
	<input type="checkbox"/> 「就業規則」等の規程に体罰等の禁止を明記しており、規程に基づいて厳正に処分などを行う仕組みが行われている。	
	<input type="checkbox"/> 被措置児童等虐待防止ガイドラインに示されているような具体的な例を示して、日常的な会議や研修会等で体罰等を禁止している。	
	<input type="checkbox"/> 被措置児童等への虐待行為や不適切対応があった場合、主管行政窓口や児童相談所等に報告するとともに第三者委員等も入れて適切な調査をし、対処することが出来ている。	

A5

【コメント】

山形県児童養護施設協議会（県内5児童養護施設）合同で作成した被措置児童等虐待防止マニュアルなどを活用して子どもへ虐待行為や不適切な対応がないよう職員には周知徹底している。

②	A6 子どもに対する不適切なかかわりの防止と早期発見に取り組んでいる。	b
	<input type="checkbox"/> 不適切なかかわりがあった場合を想定して、施設長が職員・子ども双方にその原因や方法・程度等、事実確認をすることや、「就業規則」等の規程に基づいて厳正に処分を行うような仕組みがつけられている。	
	<input type="checkbox"/> 不適切なかかわりを発見した場合には、記録し、必ず施設長等に報告することが明文化されている。	
	<input type="checkbox"/> 暴力、人格的辱め、心理的虐待などの不適切なかかわりの防止について、具体的な例を示し、職員に徹底している。	
	<input type="checkbox"/> 不適切なかかわりの防止を徹底するため、日常的に会議等で取り上げ、行われていないことを確認している。	
	<input type="checkbox"/> 不適切なかかわりの防止について、具体的な例を示して、子どもに周知している。	
	<input type="checkbox"/> 子どもが自分自身を守るための知識、具体的方法について学習する機会を設けている。	

A6

【コメント】

職員同志で気になる言動があった場合は会議で報告し話し合い、確認して防止に努めている。子ども間においてはSSTで年齢別のグループレーニングを継続したことで、対人関係のコミュニケーション能力の向上などに効果が表れている。

③	A7 被措置児童等虐待の届出・通告に対する対応を整備し、迅速かつ誠実に対応している。	b	A7
	<input type="checkbox"/> 被措置児童等虐待の届出・通告制度について、対応マニュアルが整備され、かつ日常的に活用できるようにしている。		
	<input type="checkbox"/> 被措置児童等虐待の届出・通告があった場合に、届出者・通告者が不利益を受けることのない仕組みが整備・徹底されている。		
	<input type="checkbox"/> 被措置児童等虐待が疑われる事案が生じたときに、施設内で検証し、第三者の意見を聞くなどの迅速かつ誠実な対応をするための体制整備ができています。		
	<input type="checkbox"/> 被措置児童等虐待の届出・通告制度について説明した資料を子ども等に配布、説明しているとともに、掲示物を掲示するなどして、子どもが自ら訴えることができるようにしている。		

【コメント】

被措置児童等虐待の届出・通告制度についてマニュアルを活用し、会議、研修会等で義務であることを職員に周知している。明らかになった場合は第三者委員会を開催する体制ができています。

(5) 思想や信教の自由の保障

①	A8 子どもや保護者等の思想や信教の自由を保障している。	a	A8
	<input type="checkbox"/> 子どもの思想・信教の自由については、最大限に配慮し保障している。		
	<input type="checkbox"/> 施設において子どもの思想や信教の自由を保障しようと努めているが十分ではない。		
	<input type="checkbox"/> 保護者等の思想・信教によってその子どもの権利が損なわれないよう配慮している。		

【コメント】

子どもや保護者等の思想や信教の自由を尊重し保障している。

(6) こどもの意向や主体性への配慮

①	A9 子どものそれまでの生活とのつながりを重視し、そこから分離されることに伴う不安を理解し受けとめ、不安の解消を図っている。	a	A9
	<input type="checkbox"/> 入所した時、温かく迎える準備をしているなど様々な工夫を凝らし、受け入れについて施設全体で行っている。		
	<input type="checkbox"/> 被虐待体験だけでなく、子どもの分離体験に関して施設側が理解し、配慮している。		
	<input type="checkbox"/> 分離体験からの回復に関する課題への具体的な取組を行っている。		
	<input type="checkbox"/> 入所の相談から施設での生活が始まるまで、子どもや保護者等への対応についての手順を定めており、定期的に見直しを行い、実践している。		

【コメント】

児童相談所からのアセスメントシートを参考にしながら入所時に興望館独自のアセスメントシートを年齢別（幼児用・学齢児用）に作成し、全職員で情報を共有している。事前の施設見学や職員と子どもの面談が行われて不安解消に努め、担当職員を中心に見守り信頼関係の構築に取り組んでいる。

②	A10 職員と子どもが共生の意識を持ち、子どもの意向を尊重しながら生活全般について共に考え、生活改善に向けて積極的に取り組んでいる。	a	A10
	<input type="checkbox"/> 生活改善に向けての取組を職員と子どもが共に考え、実施している。		
	<input type="checkbox"/> 生活日課や生活プログラムは子どもとの話し合いを通じて策定している。		
	<input type="checkbox"/> 子どもが自分たちの生活における問題や課題について主体的に検討する機会を日常的に確保している。		

【コメント】

児童自治会は小学校4年生からの子ども全員が参加して毎月開催され、会長・司会・書記の役割があり高校生がリーダーとなって運営しており、話し合われた内容を「意見要望書」にまとめて提出し、職員全員が迅速に周知できるように徹底している。できることはすぐ取り入れ、できないことは丁寧な説明を行い子どもたちの意見を施設全体で誠実に受け止めている。

(7) 主体性、自律性を尊重した日常生活

①	A11 日々の暮らしや、余暇の過ごし方など健全な生活のあり方について、子ども自身が主体的に考え生活できるよう支援している。	a
	<input type="checkbox"/> 一人ひとりの子どもの趣味や興味、生活文化にあった生活になるように子どもの意見を反映させ、適宜変更している。	
	<input type="checkbox"/> 図書、雑誌、新聞等、またテレビ、ビデオ、オーディオ等が、子どもの健全な発達に考慮したうえで、自由に使用できる。また、ゲームの適切な使用の配慮がされている。	
	<input type="checkbox"/> 子どもが主体的に生活に関わることができるよう工夫がされている。	
	<input type="checkbox"/> 活動に対して自発的な参加を促すよう支援している。	
	<input type="checkbox"/> 行事等の参画について、子ども一人ひとりの選択を尊重している。	
	<input type="checkbox"/> 子どもが地域の活動等に参加することを望む場合、可能な限りそれに応えている。	

A11

【コメント】

児童自治会で話し合って生活に沿った今月の目標を決めて食堂に掲示している。要望があった県内の児童養護施設で初となる施設内に子ども専用のWi-fi回線設置・高校生のスマートフォン利用などは時代のニーズに合わせ、ルールを決めて今年度から取り入れている。自転車の使用や休日の外出は学校や施設のきまりを守りながら対応している。

②	A12 子どもの発達段階に応じて、金銭の管理や使い方など経済観念が身につくよう支援している。	b
	<input type="checkbox"/> 小遣い帳や通帳を使って、限られたお金を計画的に使用する、金銭の自己管理ができるよう支援している。	
	<input type="checkbox"/> 大人と一緒に買物に行ったり、一人で買物をさせるなど物の値段の相場や、金銭感覚が身につくよう支援している。	
	<input type="checkbox"/> 自立を控えた子どもなど、必要な子どもに対し、一定の生活費の範囲で生活することを学ぶプログラムを実施している。	
	<input type="checkbox"/> 児童手当等について、子どもの目的にあわせ適切に使用または貯蓄をしている。	

A12

【コメント】

毎月、年齢に合わせた小遣いがあり、担当職員が出納帳を預かり貯金を勧めるなど子どもと話し合いながら金銭感覚が身につくよう支援している。高校卒業に向けて、自立支援室を使用して一定の生活費の範囲で生活体験する自活訓練をしている。

(8) 継続性とアフターケア

①	A13 家庭復帰にあたって、子どもが家庭で安定した生活を送ることができるよう復帰後の支援を行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 家庭復帰にあたって復帰後の生活を検討している。	
	<input type="checkbox"/> 家庭復帰後の子どもや家族の状況把握や支援方法など関係機関との役割を明確にしている。	
	<input type="checkbox"/> 家庭復帰相談を受けることを本人、保護者等に伝えている。	
	<input type="checkbox"/> 家庭復帰後の子どもや保護者等の状況の把握に努め記録を整備している。	

A13

【コメント】

家庭復帰は児童相談所が決定し、復帰先の市町村、学校、警察などの関係機関と担当福祉司、家庭支援専門相談員などでケース検討会を開催してスムーズな移行ができるよう支援している。退所後は児童相談所と連携しながら電話、手紙、家庭訪問などのアフターケアを行っている。

②	A14 できる限り公平な社会へのスタートが切れるように、措置継続や措置延長を積極的に利用して継続して支援している。	b	A14
	<input type="checkbox"/> 高校進学が困難な子どもや高校中退の子どもなどについて措置継続を行い、自立に向けた支援を行っている。		
	<input type="checkbox"/> 措置延長の期間は、就労支援や就労生活を支援するなど、自立への道筋をつけていく取組を行っている。		
	<input type="checkbox"/> 高校卒業して進学あるいは就職した子どもであっても、不安定な生活が予想される場合は、必要に応じて措置延長を利用して支援を継続している。		

【コメント】

措置継続や措置延長の事例は最近はないが児童相談所と連携を図りながら情報を共有している。高校卒業後の子どもはほとんど就職して社会人となり退所している。

③	A15 子どもが安定した社会生活を送ることができるようリービングケアと退所後の支援に積極的に取り組んでいる。	b	A15
	<input type="checkbox"/> 子どものニーズを把握し、退所後の生活に向けてリービングケアの支援を行っている。		
	<input type="checkbox"/> 退所後も施設に相談できる窓口(担当者)があり、支援をしていくことを伝えている。		
	<input type="checkbox"/> 退所者の状況の把握に努め、記録が整備されている。		
	<input type="checkbox"/> 行政機関や福祉機関、あるいは民間団体等と連携を図りながらアフターケアを行っている。		
	<input type="checkbox"/> 本人からの連絡だけでなく、就労先、アパート等の居住先からの連絡、警察等からのトラブル発生の連絡などにも対応している。		
	<input type="checkbox"/> 退所者が集まれる機会や、退所者と職員・入所している子どもとが交流する機会を設けている。		

【コメント】

自立支援室を活用した自活訓練は中学生から長期休みを利用して体験している。退所後に頻繁に訪ねて来る子どももあり、19歳の誕生日にはメッセージ付きのはがきを送り芋煮会&レクリエーションに招待し、会社訪問などのアフターケアを実施している。

A-2 養育・支援の質の確保

(1) 養育・支援の基本	第三者 評価結果
<p>① A16 子どもを理解し、子どもが表出する感情や言動をしっかり受け止めている。</p> <p><input type="checkbox"/>職員はさまざまな知見や経験によって培われた感性に基づいて子どもを理解し、受容的・支持的な態度で寄り添い、子どもと共に課題に向き合っている。</p> <p><input type="checkbox"/>子どもの生育歴を知り、そのときどきで子どもの心に何が起こっていたのかを理解している。</p> <p><input type="checkbox"/>子どもが表出する感情や言動のみを取り上げるのではなく、被虐待体験や分離体験などに伴う苦痛・いかり、見捨てられ感も含めて、子どもの心に何が起こっているのかを理解しようとしている。</p> <p><input type="checkbox"/>子どもに行動上の問題等があった場合、単にその行為を取り上げて叱責するのではなく、背景にある心理的課題の把握に努めている。</p> <p><input type="checkbox"/>子ども達に職員への信頼が芽生えていることが、利用者アンケートを通じて感じられる。</p>	<p>b</p>
<p>【コメント】</p> <p>課題を抱えている子どももおり、問題行動について職員は情報を共有して予兆を見逃さないようにし、起こしたときは別室でクールダウンしてもらうなど冷静な対応をしている。心理療法士と連携しながら子どもの課題に向き合い心の安定に努めている。</p>	
<p>② A17 基本的欲求の充足が、子どもと共に日常生活を構築することを通してなされるよう養育・支援している。</p> <p><input type="checkbox"/>子ども一人ひとりの基本的欲求を把握している。</p> <p><input type="checkbox"/>基本的欲求の充足において、子どもと職員との関係性を重視している。</p> <p><input type="checkbox"/>高齢児の日課は、秩序ある生活の範囲内で子どもの意思を尊重した柔軟なものとなっている。</p> <p><input type="checkbox"/>子どもにとって身近な職員が一定の裁量権を有し、個々の子どもの状況に応じて柔軟に対応できる体制となっている。</p> <p><input type="checkbox"/>基本的な信頼関係を構築するために職員と子どもが個別的に触れ合う時間を確保している。</p> <p><input type="checkbox"/>夜目覚めたとき大人の存在が感じられるなど安心感に配慮している。</p>	<p>b</p>
<p>【コメント】</p> <p>子どもの担当職員は2名体制をとっており、お互いにフォローするなど役割分担し、子どもの逃げ場をつくり常に連携しながら連続性のある支援に取り組んでいる。担当職員と子どもが自立支援室で一緒に調理して楽しみながら食す「部屋会」を開催している。また買い物・外出など個別のニーズにも柔軟に対応して信頼関係に繋げている。</p>	
<p>③ A18 子どもの力を信じて見守るという姿勢を大切にし、子どもが自ら判断し行動することを保障している。</p> <p><input type="checkbox"/>子どもがやらなければならないことや当然できることについては、子ども自身が行うように見守ったり、働きかけたりしている。</p> <p><input type="checkbox"/>職員は必要以上の指示や制止をしていない。</p> <p><input type="checkbox"/>子どもを見守りながら状況を的確に把握し、賞賛、励まし、感謝、指示、注意等の声かけを適切に行っている。</p> <p><input type="checkbox"/>つまずきや失敗の体験を大切にし、主体的に問題を解決していくよう支援し、必要に応じてフォローしている。</p> <p><input type="checkbox"/>朝・夕の忙しい時間帯にも、職員が子どもを十分に掌握、援助できるように、職員の配置に配慮している。</p>	<p>b</p>
<p>【コメント】</p> <p>職員は子ども自身の考えがまとまるまで待って見守り、自己決定を大切にしている。朝・夕の忙しい時間帯はパート職員を増員し、子ども全員が登園登校できたときは職員もうれしく安堵している。</p>	

A16

A17

A18

④	A19 発達段階に応じた学びや遊びの場を保障している。	b	A19
	<input type="checkbox"/> 施設内での保育が、年齢や発育状況に応じたプログラムの下、実施されている。		
	<input type="checkbox"/> 日常生活の中で、子どもたちの学びや遊びに関するニーズを把握できている。必要性があれば可能な限りニーズに応えている。		
	<input type="checkbox"/> 幼児から高校生まで、年齢段階に応じた図書などの文化財、玩具・遊具が用意、利用されている。		
	<input type="checkbox"/> 学校や地域にある子どもたちの学びや遊びに関する情報を把握し、必要な情報交換ができている。		
	<input type="checkbox"/> 子どものニーズに応えられない場合、子どもがきちんと納得できる説明がされている。		
	<input type="checkbox"/> 幼稚園に就園させている。		
	<input type="checkbox"/> 子どもの学びや遊びを保障するための、資源(ボランティア等)が十分に活用されている。		

【コメント】

娯楽室にテレビを設置しているが番組の選択は大きい子どもが優先となってしまうので、幼児室に専用のテレビを昨年のクリスマスに備え付けて、幼児番組をゆっくり見られるようになっている。小学生は帰宅後学習室で学習ボランティアの指導を受けながら勉強に励んでいる。

⑤	A20 秩序ある生活を通して、基本的な生活習慣を確立するとともに、社会常識及び社会規範、様々な生活技術が習得できるよう養育・支援している。	b	A20
	<input type="checkbox"/> 職員の指示や声かけが適切で、施設全体が穏やかな雰囲気です秩序ある生活が営まれている。		
	<input type="checkbox"/> 普段から、職員が振る舞いや態度で模範を示している。		
	<input type="checkbox"/> 施設生活・社会生活の規範等守るべきルール、「しなければならないこと」と「してはならないこと」を理解できるよう子どもに説明し、責任ある行動をとるよう支援している。		
	<input type="checkbox"/> 見やすくわかりやすい掲示物など、子どもが社会生活を営む上での必要な知識や技術を日常的に伝え、子どもがそれらを習得できるよう支援している。		
	<input type="checkbox"/> 地域社会への積極的参加を図る等、社会的ルールを習得する機会を設けている。		

【コメント】

職員の普段の振る舞いや態度は常に子どもの目を意識しながら、しっかりした大人の像を見せている。社会的ルールは障害等を持っている子どもには繰り返し説明している。

(2) 食生活

①	A21 食事は、団らんの場でもあり、おいしく楽しみながら食事ができるように工夫している。	a	A21
	<input type="checkbox"/> 食事の時間が適切で、食事を通して生活のリズムが形成されている。		
	<input type="checkbox"/> 無理なく楽しみながら食事ができるように、年齢や個人差に応じて食事時間に配慮している。		
	<input type="checkbox"/> 食事場所は明るく楽しい雰囲気、常に清潔が保たれている。		
	<input type="checkbox"/> 食事の時間が、職員と子ども、そして子ども同士のコミュニケーションの場として機能するよう工夫している。		
	<input type="checkbox"/> 陶器の食器等を使用したり、盛りつけやテーブルの飾りつけの工夫など、食事をおいしく食べられるように工夫している。		
	<input type="checkbox"/> クラブ活動等子どもの事情に応じて、温かいものは温かく、冷たいものは冷たくという食事の適温提供に配慮している。		
	<input type="checkbox"/> 施設外での食事、来客を迎えての食事など、食事を楽しむ多様な機会を設けている。		

【コメント】

食事は身体づくりの面と心の安定のために重要な役割を果たしている。子どもの要望を取り入れた献立で年1回の誕生日には子どもそれぞれのリクエストメニューにしている。各自に用意した茶碗、箸を使用し、箸の使い方が苦手な子どもには持ち方を食堂に絵入りで掲示し訓練している。

②	A22 子どもの嗜好や健康状態に配慮した食事を提供している。	a	A22
	<input type="checkbox"/> 配慮のこもった献立であるとともに子どもの発育に必要な栄養摂取量を満たした食事を提供している。		
	<input type="checkbox"/> 定期的に残食の状況や子どもの嗜好を把握するための取組がなされ、それが献立に反映されている。		
	<input type="checkbox"/> 子どもの年齢、障害や疾病、食物アレルギーなど子どもの心身の状況、また体調など日々の健康状態に応じ、それらに配慮した食事を提供している。		
	<input type="checkbox"/> 少数の子どもを対象として家庭的な環境の下で調理するときであっても、配慮のこもった献立であり栄養面も勘案されるよう、献立について振り返る機会がある。		

【コメント】

現在食物アレルギーの子どもはいない。偏った食生活をしてきた子どもには食育に努め、成長の改善が図られた例もある。嗜好品の要望については可能な範囲で応えている。

③	A23 子どもの発達段階に応じて食習慣を身につけることができるよう食育を推進している。	a	A23
	<input type="checkbox"/> 食習慣の習得を、無理なく楽しみながら身につけられるよう工夫している。		
	<input type="checkbox"/> 日々提供される食事について献立の提示等食に関する情報提供等を行っている。		
	<input type="checkbox"/> 食品分類やおやつの摂り方等、栄養についての正しい知識を教えている。		
	<input type="checkbox"/> 偏食の指導を適切に行っている。		
	<input type="checkbox"/> 郷土料理、季節の料理、伝統行事の料理などに触れる機会をもち、食文化を継承できるようにしている。		
	<input type="checkbox"/> 買い物を手伝って材料の選び方を知る機会を設けている。		
	<input type="checkbox"/> 箸、ナイフ・フォーク等食器の使い方や食事のマナーが習得できるよう支援している。		
	<input type="checkbox"/> 基礎的な調理技術を習得できるよう、食事やおやつを作る機会を設けている。		
	<input type="checkbox"/> テーブル拭き、食器洗い、食器消毒、残飯処理など食後の後片づけの習慣が習得できるよう支援している。		

【コメント】

食堂には箸の持ち方の絵を掲示し、正しい使い方など教えている。食事のまえの手洗いは徹底し、食器洗いも各自行っている。法人のグループホームの高齢者と交流し、「笹まきづくり」を体験する機会があり楽しい行事になっている。

(3) 衣生活

①	A24 衣類が十分に確保され、子どもが衣習慣を習得し、衣服を通じて適切に自己表現できるように支援している。	a	A24
	<input type="checkbox"/> 常に衣服は清潔で、体に合い、季節に合ったものを着用している。		
	<input type="checkbox"/> 汚れた時にすぐに着替えることができ、またTPOに合わせた服装ができるよう、十分な衣類が確保されている。		
	<input type="checkbox"/> 靴についても清潔で体に合ったものが提供され、汚れや水濡れにも適切に対応している。		
	<input type="checkbox"/> 気候、生活場面、汚れなどに応じた選択、着替えや衣類の整理、保管などの衣習慣を習得させている。		
	<input type="checkbox"/> 洗濯、アイロンかけ、補修等衣服の管理を子どもの見えるところで行うよう配慮している。		
	<input type="checkbox"/> 衣服を通じて子どもが適切に自己表現をできるように支援している。		
	<input type="checkbox"/> 発達段階や好みに合わせて子ども自身が衣服を選択し購入できる機会を設けている。		

【コメント】

衣類はそれぞれの好みに配慮し個性を大事にしている。洗濯物はネットに入れて出し、干して片づけることは各自が行い整理整頓している。清潔なもの、季節に合ったものか目配りし配慮している。

(4) 住生活

①	A25 居室等施設全体がきれいに整美されている。	a
	<input type="checkbox"/> 庭がきれいに清掃され、樹木や草花の植栽にも配慮が届いている。	
	<input type="checkbox"/> 室内は明るく、花や絵画が飾られるなど、温かみのある環境になっている。	
	<input type="checkbox"/> 食堂やリビングなどの共有スペースは常にきれいにし、家庭的な雰囲気になるよう配慮している。	
	<input type="checkbox"/> トイレ、洗面所等は性別や年齢に応じて使いやすいように配慮している。	
	<input type="checkbox"/> 必要に応じて、冷暖房設備を整備している。	
	<input type="checkbox"/> 設備や家具什器について、汚れていたり壊れていたりしていない。破損箇所については必要な修繕を迅速に行っている。	
	<input type="checkbox"/> 発達段階や子どもの状況に応じて日常的な清掃や大掃除を行い、居室等の整理整頓、掃除等の習慣が身につくようにしている。	

A25

【コメント】

居室は個人差もあるがきれいに整頓されている。朝・夕パート職員が声掛けし、担当職員と一緒にさりげなく持ち物点検等しながら掃除など手伝っている。「興望館規則」の中に清掃について役割分担がきめてあり館内の整理整頓にも励んでいる。

②	A26 子ども一人ひとりの居場所が確保され、安全、安心を感じる場所となるようにしている。	b
	<input type="checkbox"/> 小規模グループでの養育を行う環境づくりに配慮している。	
	<input type="checkbox"/> リビングや居室は子どもが安心していられる場所になるような配慮がされている。	
	<input type="checkbox"/> 中学生以上は個室が望ましいが、相部屋であっても個人の空間を確保している。	
	<input type="checkbox"/> 年少児の居室は、職員の目の届きやすいところに配置している。	

A26

【コメント】

大舎制なので個室ではないがカーテンで仕切り、できるだけ一人ひとりの生活空間が持てるよう工夫している。幼児は畳部屋で一緒に過ごし、夜間時は職員が隣で待機しいつでも駆けつけられるようにしている。

(5) 健康と安全

①	A27 発達段階に応じ、身体の健康（清潔、病気、事故等）について自己管理ができるよう支援している。	a	A27
	<input type="checkbox"/> 常に良好な健康状態を保持できるよう、睡眠、食事摂取、排泄、生理等の状況を職員がきちんと把握している。		
	<input type="checkbox"/> 手洗いやうがいの習慣が身に付くよう支援している。年少児については排泄後の始末や入浴の介助をしている。		
	<input type="checkbox"/> 洗面、整髪、ひげそり、歯磨き、つめ切り、耳そうじ等身だしなみについて、発達に応じて自ら行えるよう支援している。また必要に応じて入浴やシャワーが利用できるなどの配慮がされている。		
	<input type="checkbox"/> 定期的に理美容をしている。		
	<input type="checkbox"/> 寝具の日光消毒や衣類などを清潔に保つなど、衛生管理ができるよう支援している。また夜尿のある子どもについては、子どもの自尊心に配慮しながら支援している。		
	<input type="checkbox"/> 施設内外における危険箇所等を把握し、子どもの発達段階に応じて、危険物の取扱いや危険な物・場所・行為から身を守るための支援を行っている。		
	<input type="checkbox"/> 子どもの交通事故を防止するため、交通ルール等について日頃から子どもに教えている。		

【コメント】

毎朝顔色を観て健康チェックをし、インフルエンザが流行する時期には検温も行っている。自転車は一人1台持っており、外出時・通学時には交通ルールを守るよう指導を徹底している。

②	A28 医療機関と連携して一人ひとりの子どもに対する心身の健康を管理するとともに、必要がある場合は適切に対応している。	a	A28
	<input type="checkbox"/> 子どもの平常の健康状態や発育・発達状態を把握し、定期的に子どもの健康管理に努めている。		
	<input type="checkbox"/> あらかじめ関係機関の協力が得られるよう体制整備をしている。		
	<input type="checkbox"/> 健康上特別な配慮を要する子どもについては、医療機関と連携して、日頃から注意深く観察し、対応している。		
	<input type="checkbox"/> 受診や服薬が必要な場合、子どもがその必要性を理解できるよう、説明している。服薬管理の必要な子どもについては、医療機関と連携しながら服薬や薬歴のチェックを行っている。		
	<input type="checkbox"/> 職員間で医療や健康に関して学習する機会を設け、知識を深める努力をしている。		

【コメント】

健康診断や予防注射は嘱託医協力のもと実施している。受診するか判断に迷う時などいつでも嘱託医に相談できる体制ができている。また医療に関しては保護者に内容を確認のうえ同意を得て実施している。精神科の薬を常時服薬している子については職員が管理し、飲み間違い等がないかチェック表で確認し共有している。

(6) 性に関する教育

①	A29 子どもの年齢・発達段階に応じて、他者の性を尊重する心を育てるよう、性についての正しい知識を得る機会を設けている。	b	A29
	<input type="checkbox"/> 他者の性を尊重し、年齢相応で健全な他者とのつき合いができるよう配慮している。		
	<input type="checkbox"/> 性をタブー視せず、子どもの疑問や不安に答えている。		
	<input type="checkbox"/> 性についての正しい知識、関心が持てるよう、年齢、発達段階に応じたカリキュラムを用意し、支援している。		
	<input type="checkbox"/> 必要に応じて外部講師を招く等して、性教育のあり方について学習会などを職員や子どもに対して実施している。		

【コメント】

いのちの学習をして自分を大切にできるよう指導し、同性の職員が対応している。外部講師からは年代別に分けて講義を受け、性的ないたずら等が起こらないよう配慮している。情報過多な時代にあってさらに間違いのないよう健全な養育が望まれる。

(7) 自己領域の確保

①	A30 でき得る限り他児との共有の物をなくし、個人所有とすようにしている。	b	A30
	<input type="checkbox"/> 子どもが小さい頃から、自他の境界線がわかるような支援方法を心がけている。		
	<input type="checkbox"/> 身につけるもの、日常的に使用するもの、日用品などは、個人所有としている。		
	<input type="checkbox"/> 個人の所有物が保管できるよう個々にロッカー、タンス等を整備している。		
	<input type="checkbox"/> 紛失防止のためにも、個々の子どもたちに片付け方を教えている。		
	<input type="checkbox"/> 個人所有の物は、でき得る限り子どもの好みを尊重している。		
	<input type="checkbox"/> まだ字が読めない子どもに対しては、イラストマークを使用するなどして、所有物がわかる工夫をしている。記名やマークは、でき得る限り子どもからの許可を得、子どもが恥ずかしくならなくても済むような場所に留める。		

【コメント】

成長と共にシャンプーなどこだわりが出てくるので個人所有にしている。財布は一人ひとり鍵のかかるものに入れ管理し、使わない時は職員に預けるようにしている。ゲームや携帯電話等の貴重品はトラブルが起きないように気を付けて対応している。

②	A31 成長の記録（アルバム等）が整理され、成長の過程を振り返ることができるようにしている。	a	A31
	<input type="checkbox"/> 子ども一人ひとりに成長の記録（アルバム等）が用意され、空白が生じないように写真等の記録の収集、整理に努めている。		
	<input type="checkbox"/> 成長の過程を必要に応じて職員と一緒に振り返ることができ、子どもの生い立ちの整理につながっている。		
	<input type="checkbox"/> 可能な子どもとは共に、成長の記録（アルバム等）を整理している。		
	<input type="checkbox"/> アルバム等は年齢や状況に応じて個人が保管し、子どもがいつでも見ることができる。		
	<input type="checkbox"/> 子どもが施設を退所する時に、成長記録（アルバム等）が手渡されている。		

【コメント】

成長の記録として担当職員と一緒にアルバムづくりをしており、いつでも見られるようにしている。また行事の際保護者にも見てもらい渡す場合もある。中には施設入所は「負の遺産」と考える子もいるが後々の為保管をしている。

(8) 行動上の問題及び問題状況への対応

①	A32 子どもの暴力・不適応行動などの行動上の問題に対して、適切に対応している。	b	A32
	<input type="checkbox"/> 施設が、行動上の問題があった子どもにとっての癒しの場になるよう配慮している。また、周囲の子どもの安全を図る配慮がなされている。		
	<input type="checkbox"/> 施設の日々の生活が持続的に安定したものとなっていることは、子どもの行動上の問題の軽減に寄与している。また子どもの行動上の問題が起きた時も、その都度、問題の影響を施設全体で立て直そうと努力している。		
	<input type="checkbox"/> 不適切な行動を問題とし、人格を否定しないことに配慮をしている。職員の研修等を行い、行動上の問題に対して適切な援助技術を習得できるようにしている。暴力を受けた職員へ無力感等への配慮も行っている。		
	<input type="checkbox"/> くり返し児童相談所、専門医療機関、警察等と協議を重ね、事態改善の方策を見つけ出そうと努力している。		

【コメント】

発達障害を持つ子どもが増えていることもあり、関係機関、特に学校の担任とは子どもによっては毎日連絡を取り合うケースもあり協力し対応している。無断外出の際は警察との協力が得られるよう関係を構築している。

②	A33 施設内の子ども間の暴力、いじめ、差別などが生じないよう施設全体で取り組んでいる。	b	A33
	<input type="checkbox"/> 人権に対する子どもの意識を育むよう支援をしている。日頃から他人に対する配慮の気持ちや接し方を職員が模範となって示し、子どもへ説明をしている。		
	<input type="checkbox"/> 問題の発生予防のために、施設内の構造、職員の配置や勤務形態のあり方についても点検を行っている。		
	<input type="checkbox"/> 生活グループの構成には、子ども同士の関係性、年齢、障害などへの配慮の必要性等に配慮している。		
	<input type="checkbox"/> 課題を持った子ども、入所間もない子どもの場合は特別な配慮が必要となることから、児童相談所と連携して個別援助を行っている。		
	<input type="checkbox"/> 大人（職員）相互の信頼関係が保たれ、子どもがそれを感じ取れるようになっている。子ども間での暴力やいじめが発覚した場合については、施設長が中心になり、全職員が一丸となって適切な対応ができるような体制になっている。		

【コメント】

人に対して嫌なことをしていないか、されていないか職員が聞き取りシートでチェックし支援会議で共有し話し合っている。物事が小さいうちに解決できるよう取り組んでいる。

③	A34 虐待を受けた子ども等、保護者等からの強引な引取りの可能性 がある場合、子どもの安全が確保されるよう努めている。	a	A34
	<input type="checkbox"/> 強引な引取りのための対応について職員に周知徹底している。		
	<input type="checkbox"/> 引取りの可否等について、児童相談所との連絡を適宜行い、判断が不統一にな らないようにしている。		
	<input type="checkbox"/> 緊急時には協力を依頼できるよう、警察との連携を図っている。		
	<input type="checkbox"/> 強引な引取りが考えられる場合、他の子どもへの安全についても配慮がされて いる。		

【コメント】

子どものために対応困難な親への対処として、触れあいが出来ないと判断されれば渡せない場合もある。スマートフォンを持って親と話している子どももおり制限はせず見守っている。緊急時対応マニュアルは全職員に配布し子どもの安全に配慮している。

(9) 心理的ケア

①	A35 心理的ケアが必要な子どもに対して心理的な支援を行って いる。	a	A35
	<input type="checkbox"/> 心理的な支援を必要とする子どもについては、自立支援計画に基づき心理支援 プログラムが策定されている。		
	<input type="checkbox"/> 施設における職員間の連携が強化されるなど、心理的支援が施設全体の中 で有効に組み込まれている。		
	<input type="checkbox"/> 心理的なケアが必要な子どもへの対応に関する職員研修やスーパービジョンが 行われている。		
	<input type="checkbox"/> 必要に応じて心理の専門家から直接的支援を受ける体制が整っている。		
	<input type="checkbox"/> 心理的支援を行うことができる有資格者を配置し、心理療法室を設置している。		
	<input type="checkbox"/> 児童相談所と連携し、対象となる子どもの保護者等へ定期的な助言・援助を 行っている。		

【コメント】

育ってきた養育環境などから心理的ケアを必要とする子どもが増えており、心理担当職員の力が重要になってきている。施設としてSST（ソーシャルスキルトレーニング）に力をいれて取り組んでおり、週1回グループ分けして実施し、継続してきたことで対話力向上などの効果ができてきている。

(10) 学習・進学支援、進路支援等

①	A36 学習環境の整備を行い、学力等に応じた学習支援を行って いる。	b	A36
	<input type="checkbox"/> 静かに落ち着いて勉強できるように個別スペースや学習室を用意するなど、学 習のための環境づくりの配慮をし、学習習慣が身につくよう援助している。		
	<input type="checkbox"/> 学校教師と十分な連携をとり、常に子ども個々の学力を把握し、学力に応じた個 別的な学習支援を行っている。一人ひとりの必要に応じて、学習ボランティアや家 庭教師、地域の学習塾等を活用する機会を提供している。		
	<input type="checkbox"/> 学力が低い子どもについては、基礎学力の回復に努める支援をしている。		
	<input type="checkbox"/> 忘れ物や宿題の未提出について把握し、子どもに応じた支援をしている。		
	<input type="checkbox"/> 障害を持つ子どものために、通級による指導や特別支援学級、特別支援学校 等への通学を支援している。		

【コメント】

受験を控えた生徒は塾に通い学習し、昨年は全員高校合格できている。職員は高みを目指して学歴を向上してほしいと願い取り組んでいる。大会で優勝するなどスポーツ面でも活躍し、部長や学級委員を務める子どももいてみんなの励みに繋がっている。

②	A37 「最善の利益」にかなった進路の自己決定ができるよう支援している。	b	A37
	<input type="checkbox"/> 早い時期から進路について自己決定ができるよう進路選択に必要な資料を収集し、子どもに判断材料を提供し、子どもと十分に話し合っている。		
	<input type="checkbox"/> 進路選択に当たって、親、学校、児童相談所の意見を十分聞き、自立支援計画に載せ、各機関と連携し支援をしている。		
	<input type="checkbox"/> 奨学金など進路決定のための経済的な援助の仕組みについての情報等も提供している。		
	<input type="checkbox"/> 進路決定後のフォローアップや失敗した場合に対応する体制ができており、対応している。		
	<input type="checkbox"/> 中卒児・高校中退児に対して、就労させながら施設入所を継続することで十分な社会経験を積めるよう支援している。		
	<input type="checkbox"/> 高校卒業後も進学を希望する子どものために、資金面、生活面、精神的面など、進学の実現に向けて努力をしている。		

【コメント】

進路の選択においては、何が最善の利益になるのか子どもと保護者、職員、児童相談所等で話し合い、親元の高校へ行く、施設から通学できる高校で3年間過ごすなどいろいろなケースがある。何より本人の意志を大切に自立に向けた夢が持てるよう自己決定している。

③	A38 職場実習や職場体験、アルバイト等の機会を通して、社会経験の拡大に取り組んでいる。	b	A38
	<input type="checkbox"/> 実習を通して、社会の仕組みやルールなど、自分の行為に対する責任について話あっている。		
	<input type="checkbox"/> 実習を通して、金銭管理や生活スキル、メンタル面の支援など、子どもの自立支援に取り組んでいる。		
	<input type="checkbox"/> 実習先や体験先の開拓を積極的に行っている。		
	<input type="checkbox"/> 職場実習の効果を高めるため、協力事業主等と連携している。		
	<input type="checkbox"/> アルバイトや、各種の資格取得を積極的に奨励している。		

【コメント】

アルバイトは高校の許可を得て行っている。スーパーバイザーの先生には自立を考え早めの社会勉強も必要なのではとアドバイスがあり、自立に向けた支援に繋げている。

(11) 施設と家族との信頼関係づくり

①	A39 施設は家族との信頼関係づくりに取り組み、家族からの相談に応じる体制を確立している。	a	A39
	<input type="checkbox"/> 施設の相談窓口および支援方針について家族に説明し、家族と施設、児童相談所が子どもの成長をともに考えることを伝え、家族と信頼関係を構築できるよう図っている。		
	<input type="checkbox"/> 家庭支援専門相談員の役割を明確にし、施設全体で家族関係調整、相談に取り組んでいる。		
	<input type="checkbox"/> 面会、外出、一時帰宅などを取り入れ子どもと家族の継続的な関係づくりに積極的に取り組んでいる。		
	<input type="checkbox"/> 外出、一時帰宅後の子どもの様子を注意深く観察し、不適切なかわりの発見に努め、さらに保護者等による「不当に妨げる行為」に対して適切な対応を行っている。		
	<input type="checkbox"/> 子どもに関係する学校、地域、施設等の行事予定や情報を家族に随時知らせ、必要に応じて保護者等にも行事への参加や協力を得ている。		

【コメント】

家庭支援専門相談員が中心となって連絡・調整し、保護者に授業参観や三者面談、幼稚園の行事などへ参加してもらっている。施設の芋煮会&レクリエーションには多く参加してもらい共に交流し家族との繋がりを深めている。

(12) 親子関係の再構築支援

①	A40 親子関係の再構築等のために家族への支援に積極的に取り組んでいる。	b	A40
	<input type="checkbox"/> 家庭支援専門相談員を中心に、ケースの見立て、現実的な取組を可能とする改善ポイントの絞り込みを行うなど、再構築のための支援方針が明確にされ施設全体で共有されている。		
	<input type="checkbox"/> 面会、外出、一時帰宅、あるいは家庭訪問、施設における親子生活訓練室の活用や家族療法事業の実施などを通して、家族との関係の継続、修復、養育力の向上などに取り組んでいる。		
	<input type="checkbox"/> 児童相談所等の関係機関と密接に協議し連携を図って家族支援の取組を行っている。		

【コメント】

親元に帰すことが必ずしも最善の利益ではないこともあり児童相談所とは密に連絡を取っている。面会にきて短時間過ごす・連絡を取り合い月に何回か会う・月に何泊するなどしながら徐々に関係構築が図れるよう支援している。

(13) スーパービジョン体制

①	A41 スーパービジョンの体制を確立し、職員の専門性や施設の組織力の向上に取り組んでいる。	b	A41
	<input type="checkbox"/> スーパーバイザーを配置し、いつでも相談できる体制を確立している。		
	<input type="checkbox"/> 職員に対するスーパービジョンを定例的に行い、職員がひとりで問題を抱え込まないように、スーパーバイザーなどを通じて、組織としての働きかけをしている。		
	<input type="checkbox"/> スーパーバイザー以外にも職員相互が評価し、助言し合うことを通じて、職員一人ひとりが支援技術を向上させ、施設全体の支援の質を向上させるような取組をしている。		
	<input type="checkbox"/> スーパーバイザーは、職員からの信頼が得られるよう、研修に参加するなど質の向上に努めている。		
	<input type="checkbox"/> 国が定める基幹的職員を設置している。		

【コメント】

職員は常に直属の上司に相談できる体制をとり信頼関係を大事にしながら、コミュニケーションを図りストレスを抱え込まないように配慮している。外部講師によるスーパービジョン体制は確立している。